

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第5号を下記のとおり発表したの送付します。

平成20年度病虫害発生予報第5号

平成20年8月7日  
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	やや少
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	やや少
	紋枯病	—	並
	白葉枯病	並	やや少
	穂枯れ	—	並
	ニカメイガ	—	少
	セジロウンカ	—	やや少
	トビイロウンカ	—	少
	イチモンジセセリ	—	並
	コブノメイガ	—	並
カメムシ類	—	多	
ダイズ	べと病	—	やや少
	紫斑病	—	やや少
	ハスモンヨトウ	—	やや少
モモ	モモハモグリガ	—	少
	ナシヒメシンクイ	—	やや多
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	さび病	やや遅	やや少
	褐斑病	—	少
	べと病	—	やや少
	ブドウトラカミキリ	—	少
	フタテンヒメヨコバイ	—	やや少

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	— — —	並 少 やや少
トマト	疫病 葉かび病	— —	やや少 やや多
ダイコン	軟腐病	—	並
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	並
野菜共通	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	— — —	やや少 やや少 やや少
キク	ナミハダニ	—	やや少

## 1 普通作物

(水 稲)

### (1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場(朝日、稚苗移植)での調査によると、葉いもちの初発生時期は平年並で、発生量は平年よりも少なかった。

イ. 7月28～30日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は52.8%で平年並であった(平年:61.7%)。

ウ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では速やかに薬剤防除を実施する。未発生圃場でも罹病性品種では病勢の進展が早いので、早期発見に努める。

イ. 今後の気象変動によっては発生が増加する可能性があるため、今後の気象情報に注意する。

### (2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月28～30日の巡回調査によると、県北部及び中部地帯の葉いもちの発生圃場率は33.3%で平年(53.4%)よりやや低かったが、一部で多発圃場が見られた。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. イネの茎数は全般的に平年並～やや多い。

イ. 7月28～30日の巡回調査によると、発生圃場率は22.1%で平年（41.1%）より低かった。

ウ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高いとされており、高温条件は発病を助長する。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月28～30日の巡回調査及び県予察圃場において発生を認めていない。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

(5) 穂枯れ（ごま葉枯病菌による穂枯れ：早生種、中生種）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月28～30日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率21.1%で、平年並であった（平年：20.9%）。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、高温条件は発病を助長するが、少雨条件は発病を抑制する。

(6) ニカメイガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月の誘殺数は0頭で、平年（0.6頭）並に少なかった。

イ. 7月28～30日の巡回調査では、被害の発生は認めていない。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月の誘殺数は32頭で、平年（66.8頭）より少なかった。

イ. 7月28～30日の巡回調査によると、発生圃場率は54.4%で平年（56.8%）並であったが、すくい取り（20回振り）調査による成幼虫の発生量は14.4頭で平年（29.3頭）より少なかった。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月の予察灯への誘殺数は、赤磐市では0頭で平成(0.2頭)並に少なく、津山市では0頭で平成(8.5頭)より少なかった。

イ. 7月28～30日の巡回調査では、発生は認められなかった。

(9) イチモンジセセリ(第2世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月28～30日の巡回調査によると、発生圃場率は17.8%で平成(8.1%)より高かったが、被害程度は軽微であった。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月28～30日の巡回調査における被害発生圃場率は28.9%で、平成(51.3%)よりやや少なかった。

イ. 地帯別の発生圃場率は、北部地帯が0%、中部地帯が16.7%、南部地帯が61.1%と南部地域で高かったが、被害程度は軽微であった。

ウ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平成より高いとされており、本虫の増殖に好適な条件である。

(防除上の参考事項)

ア. コブノメイガによる止葉の被害は減収につながるとされている。

イ. 次世代幼虫の発生が予想される8月第4半旬頃に防除を行う。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 病害虫発生注意報第1号参照。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平成より高いとされており、カメムシ類の加害や増殖に好適な条件である。

(ダ イ ズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平成より高く、降水量は少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平成より高く、降水量は少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月のフェロモントラップにおける誘殺数は、赤磐市では277頭（平成683.1頭）で平成より少なく、津山市でも23頭（平成407.5頭）と平成より少なかった。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平成より高く、降水量は少ないとされており、本虫の増殖に好適な条件である。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月18、28日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平成(3.5%)より低かった。

イ. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月の誘殺数は18頭で、平成(109.6頭)より少なかった。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月18日の巡回調査によると、発生圃場率は60.7%で平成(42.5%)よりやや高かった。

イ. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月の誘殺数は135頭で、平成(100.0頭)よりやや多かった。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月18、28日の巡回調査によると、発生圃場率は61.8%で平成(24.7%)より高いが、主要な圃場ではすでに防除が実施されており、ハダニの発生程度はやや多であった。被害程度が中程度以上の圃場率は44.1%で平成(7.1%)より高かった。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月18、28日の巡回調査では発生を認めていない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は24.5%で平年(45.1%)より低かった。また、7月18、28日の巡回調査でも発病を認めていない。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

(3) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月18、28日の巡回調査によると、一般圃場での発生圃場率は50.0%で、平年並であった(平年:49.5%)。

イ. 県予察圃場での発病葉率は44.3%で平年(55.4%)よりやや低かった。

ウ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月18、28日の巡回調査では、発生を認めていない。

(5) フタテンヒメヨコバイ(第2世代幼虫)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月18、28日の巡回調査によると、発生圃場率は7.1%で平年(9.3%)よりやや低かった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月28日の県予察圃場での発生量は、平年よりやや多かった。

イ. 7月24、25日の巡回調査によると、一般圃場での発生程度は平年並であった。

ウ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場での発生量は平年より少なく、一般圃場での発生程度は平年並であった。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は

少ないとされており、発生を抑制する条件である。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場での発生量は平年より少なく、一般圃場での発生程度は平年並であった。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされている。本病は高温で発生が助長されるが、少雨では抑制される。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場では平年と同様、発生を認めなかった。

イ. 7月24、25日の巡回調査によると、一般圃場での発生程度は平年並であった。

ウ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、発生を抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場では平年と同様、発生を認めず、一般圃場での発生量は平年よりやや多かった。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされている。本病は高温で発生が助長されるが、少雨では抑制される。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24、25日の巡回調査によると、一般圃場での発生程度は平年並であった。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされている。本病は高温で発生が助長されるが、少雨では抑制される。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24～25日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、これらは発生を助長する条件である。

(各野菜共通の害虫)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 黄色水盤への7月の飛来数は、赤磐市では34頭と平年(94.5頭)より少なく、津山市でも156頭と平年(497.3頭)より少なかった。

イ. 7月24～25日の巡回調査によると、一般圃場での発生は平年より少なかった。

ウ. 8月1日の季節予報によると、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～25日の巡回調査によると、一般圃場の露地野菜(ナス、キュウリ)での発生量は平年より少なかった。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける7月の誘殺数は、赤磐市では277頭と平年(683.1頭)より少なく、津山市でも23頭と平年(407.5頭)より少なかった。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

4 花き類

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～25日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年より少なかった。

イ. 8月1日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、これらは発生を助長する条件である。



## 病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224

## 携帯電話用アドレスの公開

予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。

アドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm>



QRコード